

Japan Buy-out Deal Conference 2010

ポラリス・キャピタル・グループ株式会社

資料

投資方針

- 投資パターン : カーブアウト型、スピンオフ(MBO)型、非公開型、事業承継型、事業再構築型(PIPEs)等
- バイアウト投資 : 既に一定の事業基盤を持つ企業や事業部門にマジョリティー・シグニフィカントマイノリティ投資
(主にLBOでアレンジ) その他、再生可能な企業に対する再生投資も対象に
- ハンズオン : 役員派遣等で会社経営に積極的に関与(ポラリス独自のバリューアップ・モニタリング手法を適用)

投資セクター

非公開・公開、議決権割合の外、下記投資先業種に対してポートフォリオバランスを総合的に勘案して投資運用

- I. 技術・製造(電機、精密、化学、医療、輸送機器、等)
- II. 消費財・小売(小売・流通、食品、ヘルスケア、等)
- III. 金融・サービス(金融、運輸、物流、アウトソーシングサービス、等)
- IV. メディア・エンタテインメント(ネットメディア、コンテンツサービス、等)

ファンド／投資サイズ

- ファンドサイズ : 2004年ポラリス第一号ファンド296億円、2008年ポラリス第二号ファンド319億円
- 投資サイズ : ファンドポートフォリオ分散の観点から1ファンドあたり8~10件、1件あたりエクイティ投資額は平均30~40億円、ファンド総額の25%を上限

主な投資実績

ドラッグイレブン、キューサイ、駅探、トップツアー、日本オイルポンプ、オークネット、昭和薬品化工

潤沢なディールフロー

- 98年以降の国内バイアウト案件のうち、ディールサイズで100億円未満の案件数で約77%、300億円未満の案件数で90%超を占める
- オーナー事業承継、大企業の非コア事業部門・子会社のカーブアウト・スピノフ、非公開化は中型案件が中心

LBOファイナンスの起動性

- 大型案件はメガバンクにとって魅力は大きいものの、アンダーライティングやシンジケーションの観点で、中型案件の方が金融機関の裾野が広く機動的な調達が可能

高いバリューアップ潜在力

- 中堅・中小企業はヒト・モノ・カネの経営資源が不足がちであり、外部資源の投入余地が大きい上、企業規模の面でバリューアップ施策を浸透・徹底しやすい

エグジットの柔軟性

- 大型案件と比べ、買収能力の観点でトレードセール時の潜在的な買い手候補先が多い